

にちれん にほんこく しゅつげん
日蓮、日本国に出現せずば、
によらい きんげん むな た
如来の金言も虚しくなり、多
ほう しょうみょう 何 じっぽう
宝の証明もなにかせん。十方の
しょぶつ みこと もうご
諸仏の御語も妄語となりなん。
ほとけ めつご にせん にひやく にじゅうよねん がつ
仏の滅後二千二百二十余年、月
し かんどう にほん いっさい せけん た
氏・漢土・日本に「一切世間多
おんなんしん いっさい せけん あだおお
怨難信（一切世間に怨多くして
しん がた ひと にちれん
信じ難し）」の人なし。日蓮なく
ば、ぶつごすで た
ば、仏語既に絶えなん。

(御書新版1849ページ・御書全集1514ページ)

通解

日蓮が日本国に出現しなければ、仏の金言も虚言となり、多宝如来が「法華経は真実である」と言った証明も、何の役にも立たない。十方の諸仏のお言葉もうそとなるであらう。

仏が亡くなられて二千二百二十余年の間、インド、中国、日本に「世間の人々にてきたいしゃ敵対者が多く、信ずることが難しい」と説かれる経文通りに難に遭った者はいない。

日蓮がいなければ、仏の言葉は、もはや途絶えてしまったことであらう。

こうけい かがや
後継の心で自分らしく輝こう

よくわかる解説

みなさんこんにちは、サンです！ 今月も元気いっぱい御書を研さんしていこう！

今回学ぶ「単衣抄」は、1275年（建治元年）、大聖人に、単衣（裏地の付いていない着物）を供養した夫妻に送られた御礼のお手紙です。

本抄ではまず、民衆救済のために「南無妙法蓮華経」の題目を弘める中で、大聖人がさまざまな難に遭ってきたことを挙げられます。そして、これらの難は、法華経に示された、釈尊が亡くなった後に法を広める人に大きな難が起ることを、身をもって証明したものであると仰せです。

インドから中国、日本へ伝わってきた法華経。その長い歴史の中で、経文通り難に遭いながらも、法華経を持ち続けたのは大聖人ただ一人でした。また、大聖人がいなければ、仏の言葉も「法華経は真実である」と述べた多宝如来の証明も、うそになっていたと断言されます。

この大聖人の御精神を受け継いで広宣流布の闘争

をつらぬいてきたのが、創価三代の会長です。初代会長の牧口先生、第2代会長の戸田先生、第3代会長の池田先生は、平和の連帯を世界192カ国・地域にまで広げたのです。

池田先生は語っています。「学会の前進も、どんな障魔にも退かなかった。前へ前へと進んだ。だから勝ってきた。“何があろうと、一步も退かない”——これが学会精神である。その人こそが、無限の勝利を得ることができる」

私たちのお父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも、この戦いに連なって広宣流布を進めてきたんだ。私たちも同じように、難に負けない強い心を受け継いでいきたいね！ とても大きなことに思えるかもしれないけれど、大切なのは、目の前の勉強や部活に自分らしく取り組むことなんだよ。そして、悩んだ時にはお題目で心を磨いて、諦めずに壁にぶつかっていくことが大切なんだ。

今月5日は「創価学会後継者の日」。後継の心を燃やして、自分らしく輝いていこう！